



鈴木 朝英 先生揮毫

事務局 札幌市西区西野
7条2丁目1-2
齋藤 彰 方
TEL 090-3773-8824

発行責任者
会長 竹 田 正 直
北大教育学部同窓会

学部近況



教育学研究院長・教育学院長・教育学部長

宮崎 隆 志

今年四月から学部長（・学院長・研究院長）を務めています。気が付くと、この学部の建物に通い始めてすでに三十八年が経過しました。学部西玄関から中央食堂に向かう小径の白樺はすっかり大木になり、緑風と共にその中を通り抜けるかのような並木道を形作っています。皆さまにおかれましては、お元氣にご活躍のことと存じます。

まずは慣例により、学部の近況をお知らせ致します。三月には大塚吉則先生が定年によりご退職されました。大塚先生は、二〇〇六年に北海道大学保健管理センターから教育学研究科健康スポーツ科学講座・教授として着任され、温泉研究はもとより全学教育から大学

院教育に至るまでの健康教育にご尽力頂きました。総長補佐もお勤めになり、北海道大学の管理運営にも貢献していただきました。現在は、札幌国際大学において教鞭を取られています。

五月には厚東芳樹先生がご退職されました。厚東先生は二〇〇八年に体育方法学研究グループの助教として着任されて以後、体育方法学の研究と教育に従事してこられました。ご退職後は教育実践の現場において、これまでの研究・教育成果の展開を試みられています。

残念ながら新たな教員採用につきましては、皆さまご存知ように、北海道大学の人件費削減計画の影響を受けて、実現に至っておりません。その結果、現在の教員数は三八名となりました。しかし、この間、小内前学部長によつて開設された教育研究支援室や、臨床心理士・公認心理師の資格取得に関わる実習の支援担当事務補助員の配置などにより、限られた人数でも研究・教育・社会貢献のパフォーマンスを落とさないように、事務職員の方々も

北海道大学 ホームカミングデー 2018

主催 北海道大学 共催 北海道大学校友会エール
会場 北海道大学 札幌キャンパス（クラーク会館他）
日時 平成30年9月29日（土）

9:50 北海道大学民謡研究会合唱団わだちによる演奏
10:00 歓迎式典

10:00 歓迎式典
ご挨拶 北海道大学総長 名和 豊春

10:25 記念講演会
ご挨拶 北海道大学校友会エール会長 石山 喬

11:05 吉澤 和徳 北海道大学大学院農学研究院 准教授

11:20 学生による活動報告
歓迎ステージ

11:32 「都ぞ弥生」斉唱
北海道大学交響楽団

北海道放送株式会社 船越 ゆかり HBC少年少女合唱団事務局長
（経済学部卒）

詳しくはホームページをご覧ください。
ホームページはこちら <https://www.hokudai.ac.jp/home2018/>

文系四学部共同開催公開シンポジウム

会場 15:00～16:30 人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）103号
テーマ 「いままでの北海道 これからの北海道」
パネリスト 森田 美由紀さん
（北海道大学文学部卒、NHKアナウンサー）

「ニュース21」「ニュース7」など、長く報道番組を担当。
現在は「あの日 あの時 あれ番組」の司会や、様々な番組のナレーターとして活躍中。

詳しくは会報最終ページの広告をご覧ください。

H30年度北海道大学教育学部同窓会総会・懇親会

日時 平成30年9月29日（土） 16:45～17:15
会場 文系共同講義棟（通称、軍艦講堂）1番教室
四学部合同懇親会 17:30 中央食堂2階
会費 3,000円（同伴家族は2,000円）
連絡先（幹事） 090-3773-8824 齋藤 彰（1980年教育行政卒）

同窓会名簿発行再延期お知らせ

予約注文を受けてきた同窓会名簿は、予約数が予定に足りなかったため、再度延期して、70周年記念行事に合わせて再検討する事になりました。（詳しくは13ページのお知らせをご覧ください。）

含めて部局一丸となって努力しています。

最近では、教育福祉論研究室の松本伊知朗先生を代表とする子どもの貧困の実態調査が新聞報道でも大きく取り上げられました。この調査には、発達心理学の先生方も研究チームに加わり、部局内の協働の起爆剤になっています。また、札幌市・北海道との共同の取り組みでもあり、実践現場や行政と連携した社会実装の取り組みとしても新たなモデルと言えます。ここではすべてを記すことはできませんが、多くの教員が教育・福祉・保健・医療・労働に関わる実践現場や行政あるいは企業との協働を積極的に進めています。

国際化も加速度的に進展しています。二〇一〇年に始まったESDキャンパス・アジアプログラムは、現在、ESDキャンパス・アジア・パシフィックプログラムとして展開されており、中国・韓国・ロシアの学生と教育学部の学生が、相互に行き来しつつ共に学ぶプログラムとして定着しています。近年では、平取町のご協力を得て、アイヌ

文化に学びながら、近代における発展概念を再検討するカリキュラムを彫琢してきました。

大学院では、北京師範大学とのコチュテル・プログラムを開始します。これは、双方の大学院が協働で院生の研究指導を行う教育プログラムです。ESDキャンパス・アジアプログラムの実績の上に成立した大学院レベルの留学プログラムとも言えます。

また、二〇一六年から始まった北海道サマー・インスティテュートは、今年で三年目を迎え、海外の大学院から受講する大学院生約二〇名と教育学院の院生約二〇名が、英語による集中講義を受講しています。招聘する研究者はいずれも「トップランナー」と呼ぶに相応しい方々です。今年度は、「社会的排除・分断社会を乗り越える」をメイン・テーマにし、主にヨーロッパで展開している社会的教育学 (Social Pedagogy) が、現代社会において有する意義と課題を明らかにする講義が展開されます。韓国やフィリピンの民主化過程において民衆の間

で展開した教育実践についても取り上げますが、このような内容は世界中を見渡しても、北海道大学の教育学院以外には構成できないものと自負しています。

本局は、二〇一九年度に創立七〇周年を迎えます。大学をめぐる状況は厳しいものの、生きるに値する社会を求める多くの人々と共に希望を語り得る教育のあり方を発信する私たちの役割は、ますます大きくなっていると考えます。城戸先生以来、そのような使命を果たすべく努力を積み重ねてこられた同窓の皆さまとご一緒に、この記念すべき年を誇りをもって迎えられよう、部局構成員一同、さらに奮闘してまいりますので、引き続き、ご支援を頂ければ幸甚に存じます。



来年は教育学部創立七十周年記念の年



北大教育学部同窓会会長

竹田正直

一、城戸幡太郎二代目学部長らが学部構想を立案

北海道大学教育学部は、一九四九 (昭和二十四) 年五月三十一日に公布された国立学校設置法によって発足しました。一九四七 (昭和二十二) 四月一九日発足の法文学部 (経済学二講座を含む) の約二年後です。初代学部長は、伊藤吉之助法文学部長が兼任 (一九四九年七月三十一日付就任) しました。しかし、すでに前年一月に学内の大学設置基準対策委員会に教育学部設立に関する小委員会が発足し、教育学部創設委員会も設けられ城戸幡太郎氏に学部長をお願いしていました。城戸幡太郎氏は国立教育研修所 (後に研究所) の所長をしていたなど、学部長に就任したのは一九五一 (昭和

二六) 年六月一日でした (『北大百二十五年史』二〇〇三年刊、『写真でつづる教育学部50年』一九九九年刊、参照)。

したがって、正式には、城戸幡太郎学部長は、二代目教育学部長ですが、教育史学講座の初代教授 (着任時は法文学部教授) の鈴木朝英先生によると、城戸先生は、学部創設の基本構想、学科・講座の立案もまかさ

れ、奥田三郎先生や留岡清男先生のほか宗像誠也教授など戦前の教育科学研究運動のメンバーの意見もききながら研修所内で所員であった鈴木朝英先生ら数人と夜間に熱心に検討を続け、一四学科、約一五〇講座という、膨大な教育学と地域開発に貢献する教育学部構想を立案しました。

しかし、文部省折衝の過程で縮小を余儀なくされ、教育学部一学科 (一九四九年六月一日設置) に、構想上の学科が講座となる方向で、最初の「教育史学講座」 (同年六月二二日) をはじめ、「社会教育講座」

「教育計画講座」 (一九五一年四月一日) と順次設置されていった。「特殊教育講

座」、「産業教育講座」 (一九五二年四月一日)、「生活教育講座」 (一九五三年四月一日)、「学校教育講座」 (一九五四年四月一日)、「教育制度講座」 (一九五七年四月一日)、「付属産業教育計画研究施設」 (一九五九年四月一日)、「発達心理学講座」 (一九六六年四月五日) などが続きます。

二、体育専攻と音楽専攻の学生募集及び大学院設置

城戸構想の「衛生教育学科」と「体育学科」は、「体育専攻」として一般教育科目担当をふくめるのに大学院修士・博士課程をもつ「健康体育科学講座」へと続き、幾多の人材を体育学会やスポーツ界に送り出してきました。健康体育スポーツ科学にかんする大学院博士後期大講座「健康体育科学講座」が出来た当時 (一九九〇年六月八日、保健体育学科目より改編、高村泰雄学部長)、七大学で初の快挙で他大学の目標にもされました。

城戸構想の「芸術学科」は、「音楽専攻」として創設時から一九五二年一〇月三十一日の募集停止まで入学

生がおりました。卒業期では、第七期卒業生までおり、戦後日本の、とくに北海道の音楽教育と音楽水準の向上、普及に大きく貢献しました。そして音楽担当の教授陣は、一九五六年二月の北海道学芸大学札幌分校特設音楽科設置を担うこととなったのです。私が教育学部で学んでいたときは、音楽専攻の学生もおり、学部にはピアノが何台もありました。

大学院教育学研究科は、一九五三年三月三一日に設置され、今日の大学院中心の大学院教育学の基礎が生まれたのです。また、就学前教育の子どもの発達研究と地域住民の子どもの保育要求に大きく貢献した「北大幼児園開園式」が、一九五二年十一月一日に行われました。音楽専攻や幼児園の開設にみられるように、制度化は数年、あるいは十数年あとなるものでも、研究・教育と社会が必要とするものはまず導入するとの城戸先生をはじめとする先人の強い意思とそれを可能とした変革期の柔軟性を感じます。

三、北大教育学部のユニークさ

学部構想を練り上げた城戸幡太郎先生や鈴木朝英先生たちは、人間の存在するあらゆる場面に人間の発達の課題があり教育学の対象があると考え、家庭教育や就学前教育から学校教育、高等教育、さらに、企業や生産現場での産業教育、社会や生活のあらゆる場面での教育を教育学の対象と考え、今日の生涯学習教育時代を先見的に見通していたといえます。そのため、科学のあらゆる分野の研究者を教員に迎えました。私が定年になるまで北大教育学部の教員は、北大の学部構成で見れば、歯学部と獣医学部の出身以外の全ての学部の出身教員が採用されていました。例えば、教育史は文学部歴史学出身、教育社会学は同社会学出身、教育法は法学部出身、特殊教育は医学と心理学出身、産業教育は経済学部出身、農業教育は農学部出身、漁民教育は水産学部出身、理科教育は理学部出身、技術教育は工学部出身、保健体育は医学部や薬学部出身等々です。もちろん、全国の多

様な大学出身の教員でした。このような多彩な分野の教員の講義や演習、卒業論文できたえられた学生・院生は、卒業・修了して全国的に、一部は国際的に、各地域で、教育分野は言うに及ばず多彩な広い分野で活躍し、人間の発達を尊重しつつ総合的な視野で活動し、高い評価をうけています。

多彩な出身の教員の研究は、教育学の分野でも、各出身学問分野でも、実にユニークな研究として評価され、私が学部長をしていたころ、その評価は科学研究費採択の高い比率となって現れていました。これには教育学部事務の方がたの温かい協力がありました。当時、北大の採択率は七大学で下位を低迷しておりましたが、教育学部は、トップの東大と同等水準でした。丹保総長から全学の改善を相談され、事務局長や総務部長の協力も得て若干改善の努力をしたところ、次年度の採択率が七大学の上位となり全国総長会議で注目されたとのことでした。

四、来年の七十周年にむけて

教育学部七十周年記念事業について宮崎隆志大学院教育学研究院長・学部長の意向をおききするために、二〇一八年六月一九日（火）夕方、学部長室を竹田が訪問しました。

竹田からは、学院・学部としてすでに七十周年記念事業の計画があれば、協力について同窓会で検討したいし、同窓会独自立案を希望するのであれば、同窓会で検討しますが、そのさいも学部長と協議しながら進めたいと述べました。宮崎学院長・学部長からは、記念研究出版やシンポジウムなどの構想もあるが研究推進委員会などの検討をすすめ、実行委員会の立ち上げや予算化が必要になるとのことでした。竹田からは、教職員・学生・院生など全ての学部構成員と同窓生が参加できる事業として記念植樹などもあるが、と述べたのに対し宮崎学院長・学部長からは、検討しうる場所の示唆がありました。

この話し合いの内容を、六月二六日（火）夜に北大遠友学舎において行われた

教育学部同窓会役員・幹事に報告いたしました。学部から宮崎隆志学部長と守屋淳教授（社会連携委員長）、川田学准教授（同窓会担当）も参加されました。

なお、創立五十周年記念の際は、同窓会としては、「創基五十周年記念植樹」（八重桜、しだれ桜、はなみずき、夏椿）と花壇造成を行っています。

今後、教育学院・教育学部での記念行事や記念事業が決まりましたら、同窓会としても協力の可能性を検討いたしますので、同窓生の皆さまにもご協力をよろしくお願い致します。

五、教育学部同窓会とホームカミングデー

教育学部同窓会は、全学の同窓会のなかでは最も小さな同窓会です。大きな同窓会は複数の専従職員がおり、多くの同窓会は、一名の専従か半専従の方がおりますが、教育学部は予算上その可能性は全くなく、学部事務の支援をえながら、殆どは齋藤彰幹事長が勤務との両立を図りながらボランティアで献身的に活動してくれています。

第一は、『会報』の発行です。学部と大学院の卒業生の約半数にあたる一、八五〇人の住所が判明しており、その方々全員に送っております。全ての方が年会費二千円を納入してくださると三七〇万円となりますが、現実には、送付者の一〇分の一ほどの約二〇〇名です。数年前二五〇名程に伸びましたが、この一年は下がってしまいました。会費は殆ど会報の印刷費と発送費でなくります。後の会計報告より多い印刷発送費ですが、校友会エールなどの広告料でカバーしており、広告費の請求は、印刷所から直接校友会エールにまわりますので会計報告には現れていません。なお、『会報』には出来るだけ多様な方に執筆していただきたく幹事が努力しております。ご協力ください。

第二は、ホームカミングデー（毎年、九月の最終土曜日）の午後に行われる文系四学部合同シンポジウムとその後の学部同窓会総会と懇親会（四学部合同で会費制）の取り組みです。今年、二〇一八年は、九月二九日（土）です。午前中は

全学行事があり、昼食パーティは、北大校友会エールムがかなりの補助を出しての会費制です。文系四学部合同シンポジウムは、いつもの年は二時ですが、今年は三時から文系共通講堂です。その後、学部同窓会総会と懇親会です。学部同窓会総会への参加が減少傾向にありますので、ぜひ多くの同窓生に参加していただきたいと思っています。

第三は、毎年、三月末の北大全学卒業式のあとに行われる教育学院・教育学部卒業式及び祝賀会に、会長と幹事長、ときには副会長も出席し、卒業式では会長が祝辞をのべ、その年の学部卒業生の中から、男女各一名の教育学部同窓会学年幹事を選んでもらい委嘱状を渡します。幹事長は、祝賀会で祝辞を述べます。なお、同窓会から、卒業式場へアレンジの生花と祝賀会へビールをプレゼントしております。

第四は、五年ごとに改訂・発行してきた教育学部域同窓会、海外同窓会は、

『同窓会会員名簿』の刊行です。

一九二二(平成二四)年四月二七日付で、『平成23年度版』を出したのが、最新版なので、数年前から齋藤彰幹事長を中心に刊行準備を進めておりますが、一冊頒価四、五〇〇円、二〇〇冊刊行でご案内してきましたが、二〇一八年七月二〇日現在、七四冊の申込で刊行の目途がたつてい

第五は、同窓生や教職員など関係者がご逝去されたさいに弔意をあらわすことです。

言うまでもなく、全国の同窓生のご逝去を役員、とくに幹事長が把握することは難しく、また、最近は、家族葬など非公表もありますので、結局、齋藤幹事長が、ご葬儀に間に合う日時の余裕をもって知り得た場合に弔電を送っております。

六、北大校友会エールムへのご入会をおすすめてください

第六は、「北海道大学校友会エールム」の活動と協力です。各学部同窓会及び地域同窓会、海外同窓会は、

「北海道大学校友会エールム」の基礎同窓会となっております。この校友会エールムの理事に竹田(本年六月総会で再任)が、評議員に齋藤幹事長(再任)がなっております。専門委員として、同窓生の國安保(アイワード)部長が広報・情報処理委員長(再任)として、浅川和幸教育学教授(同窓生)が就職・活動支援委員として活動してくれています。

従来は、「北海道大学連合同窓会」であった組織を二〇一六年六月一日から、「北海道大学校友会エールム」に改組し、百年会館に事務局をおき、北大に入学した学生・院生、研究生等をはじめ保護者、現職教職員など北大関係者が、終身会費二万円で会員となることでできます。改組前から既に各学部同窓会であった方はその学部の同窓会費を支払うことで校友会エールムの会員となります。

校友会の基本的な財源は、企業研究セミナー事業収入(大学と協力して学生へ行う企業説明会で、規模等に応じ各社五、二〇万円)で、年、約七、五〇〇万円の収入があり、うち、経費が二、

〇〇〇万円、大学の学生・院生、教職員支援基金の北大フロンティア基金への寄付が約三、七〇〇万円、税金八〇〇万円を引いた残りとは会費収入です。然し、会費収入は別会計にして全てを現役学生・院生等の支援に当てています。例えば、新入学生が二万円の会費を払って会員になると、英語検定料五千円余を、年一回四年間、校友会が負担します。

この七月で一、一〇〇名の一、二年の学生や保護者が入会しておりますが、まだ、対象者の数分の一です。お知らせに現役の後輩がおりました、ぜひ入会をおすすめてください。

七、最近のことなど

近年、先輩の計報のみならず、後輩や、私が教員となつてからの同窓生、いわゆる「教え子」の計報に接することがあり、悲しみや無念さで胸がいたくなりま

は、元気に現職を続けておりますし、中には、立派に定年を迎え第二の人生に張り切っている方々も多くおります。ご自愛のほど心から祈念致します。

おかげさまで私は、今のところ病氣もなく元気で過ごしております。研究では、北海学園大学開発研究所特別研究員を継続しています。この研究所の紀要に「共育」にかんするささやかな論文を発表し続けています。五四年前、モスクワ大学の留学を終えた翌年の一九六四年二月二五日に、雑誌論文に「教育は「共育」であり、教育の主人公は生徒である」と書きました。その五年後、一九六九年、中小企業家同友会全国協議会(中同協、現在約四六、〇〇〇社)が結成され、北海道中小企業家同友会(道同友会、約五、八〇〇社、全国一位)も同年結成され、来年五〇周年を迎えます。

大久保尚孝専務、国吉昌晴事務局長(昭和四一年北大教育学卒、第一四期、後に中同協事務局長から専務、副会長)が、社員教育を活動の中心にすえ、「共育」を用いだし、中同協の第五



教育学部の女子学生が描いた
竹田正直の似顔絵

今は昔(四)

一九六六年卒、教育史比較教育

逸見 勝 亮

◇二〇一八年度も、学外研

究員として北大文学書館

(クラーク会館西側、旧留

学生センター)へ通ってい

ます。外見はともかく、生

活振りは相変わらずで、五

時半起床、弁当持参で日参

しています。文書館西隣の

北大保育所の園児や、時々

立ち寄るご近所の二歳児君

が遊び相手です。

◇僕が手にしている「ギ

ター演奏図」(布・毛糸)

は、二〇〇二年入学一年五

組(教育学部)が、体育会



主催新人生大運動会・クラ

スマッチ(ムカデ競走、縄

跳びなど)用に作成した

「クラス旗」の一部です。

撮影日は、二〇一八年七月

一二日です。笑顔は演技で

す。

◇時々エゾリスが視界を駆

け抜けます。

構内・通勤路で出会った

野鳥は、ウグイス、キビタ

キ、ヤマガラ、ハシブトガ

ラ、シロハラゴジュウカラ、

エゾアカゲラ、コムクドリ、

ムクドリ、ハイタカ、セグ

ロセキレイ、カワラヒワ、

スズメ、ハシボソガラスで

す。

◇二〇一七年七月以降に、

出会った卒業生の方々のお

名前(出会った場所)を順

不同で記しておきます。

井上高聡・山本美穂子

(大学文書館、二人は文書

館職員なので毎日)、長屋

良行・／所伸一・西田麻子

親子・須田力・羽田貴史・

竹下忠彦・稲田雅久・近藤

健一郎・山下直樹・長根光

男・陳省仁・中村瑞穂・矢

野義幸・戸田博史(大学文

書館)、横山倫子(横浜)、

白取道博(学会、横浜)、

伊藤勇・明神勲・篠田(久

田)・豊子(図書館)、小川

正人(学会、北海道博物

の再会！ 外形と清新な印

象は学生のときと同じでし

た。仕事と講義で配布した

田辺聖子「川柳でんでん太

鼓 鶴彬「手と足をもいだ

丸太にしておえし」(『小

説現代』の複写(お母さ

んが布を張って冊子とし

た)は今も手許にあるなど

と立ち話。

遠藤勝彦さんは、鹿児島

県いぶすき菜の花マラソン

完走とのこと。小川亜弓さ

んはほとんど独演でした。

守屋理子一家とは八年ぶり

で、娘たちと「和食が好

き」などとおしゃべりして、

一時間はあつという間。稲

朝の番組で見かけないと書

いたところ、担当番組を記

したメールが到着。早速僕

は、彼がMCをつとめてい

る「スポーツイノベーショ

ン」で、身長差に抗して勝

利した女子バレーボール

ワールドグランプリ対ブラ

ジル戦の解析(二〇一七年

九月一〇日)を観ました。

移行生合宿(大滝セミナー

ハウス、一九九六年一〇

月)で、大丈夫と言われて

放った強烈なボデーフック

にビクとしなかった向井

さんの腹筋！

◇二〇一八年五月二七日付

『朝日新聞』朝刊「教育」

先生「公開授業」欄は、

「作文でクラスを育てる」

大原雅樹さんを紹介しまし

た。大原さんは、夏休み中

に修得した落語「桃太郎」

を演じた由。

「阿波藍の唄が聴こえる」

「ゲゲゲの女房」などの脚

本を著した山本むつみさん

は、WEB上に沢山おりま

す。

忘れないうちに、記して

おきます。

◇先に大学文書館への資料

提供をお願いいたしました。

須田力さんは教育青年会

出版部が編んだ『月刊 青

年サークル』などを、稲田

「こんなものが大学文書館に必要なのか」。そう、それこそが資料です。下記宛てに「一報下さると幸甚でございます」。

・北海道大学大学文書館：archives@general.hokudai.ac.jp、011-706-2395
・逸見勝亮：hemmi@edu.hokudai.ac.jp

五十にして

「天命」かなと知る



平成四年卒 教育計画

大谷 智 昭

北大教育学部では杉村・青木先生や諸先輩方にお世話になり、様々なことに首を突っ込んでいた学生生活。諸先生方がされた講義への理解は不十分であったが、実践で学ぶことが多くあった教育福祉という分野。当時、貧困を考えたときに、子どもの人生を大きく左右する中学校の重要性を感じたことと、卒論を指導して

くださった青木先生の「卒論はまあええ」「実践で勝負しろ」との励ましを真に受けて、中学校教師として宗谷の地に赴任。

現場での取り組みを通して、絶えず「豊かさ」とはということを意識して、自問自答を繰り返してきた。「豊かさ」を意識したとき

に過疎地域だからこそ、「学力」の必要性を強く感じる。所得の低さ、競争の少なさ、不便さや選択の少なさなど、経済と学力にかかわる問題は大きい。一方で様々な人とのふれあいを通して、「心の豊かさ」の大切さも感じる。この地で自立して、たくましく生きていく人達がたくさんいる。

結局、人が「豊か」に生きるためには、自己選択の機会と能力が必要だとの結論にいたる。

あれから二十七年の月日が経ち、稚内市ではここ数年、子どもの貧困に目を向けた取り組みが始まっています。松本先生を講師に迎え、シンポジウムが開催されています。昨年、中頓別町で開かれた宗谷管内PTA研究大会では、須田先生の分科会に参加させていた

だき、懐かしくも変わらぬ「須田節」を聞かせていただきました。須田先生との再会をきっかけとして、本原稿を書かせていただいたています。そして今年の四月には、宗谷管内の歌登町に同じ中学校教師として平田先輩が赴任されました。直接、お話しできたのは六月の中部連会場での一瞬でしたが、約三十年のブランクを感じさせない自然なお話がありました。教育学部のつながりの深さをあらためて感じます。

例えば、私は教育学部にかかわるたくさんの人達によって、多くの自己選択の機会と能力を与えていただきました。今、五十歳を目前にし、教育学部でお世話になった方々に関わる機会を得る度に、ここに在ることが「天命」なのではないかと、感じている自分があります。

今、自分はこの地で、これからの社会を担っていく子ども達に、どのように自己選択の機会と能力を身につけさせることができるのでしょうか。まだまだ、やるべきことは山積みですが、たくさんの方々のおか

りして、一人でも多くの生徒が「豊かに生きる」ことができるような実践をすすめたいと思っています。そして、いつになるのかはわかりませんが、これが自分の「天命」だと確信をもって、みなさんにお話しできるように努力を続けたいと思っています。

結びになりますが、自身ふり返りと学びの機会を与えてくださいました須田先生、そして私の人生で様々なサポートしてくださる教育学部同窓会および関係の方々に感謝申し上げます。

牛乳と豊富温泉、そしてサロベツ国立公園がある豊かに富んだ町

豊富町立豊富中学校

北大で見つけた

新たな自分

二〇一六年卒 社会教育学セミ

宮 脇 崇 文

卒業して今年で三年目になる。私が新卒として入社したのは大手の金融機関だった。三年目にもなれば

二世代の後輩からは頼られ、仕事も手についてきて楽しくやっているころだ。やつと慣れたきたスーツを着て、都心のビル街を颯爽と歩く自分の姿は、社会人一年目の自分が思い描いていた「カッコいい自分」だ。

今の自分はどうかろうか。通い慣れた北海道大学に、ジーンズにボロシャツの姿で通勤している。何百キロとある大きな機械を運ぶこ

とも、深夜までじゃがいもを洗い続けることも、今の私の仕事だ。週に二日あった休みも、今はほとんど無い。切磋琢磨する同期も、頼られる後輩も、いない。思い描いていた「カッコいい自分」を捨てた自分は「北大マルシェ Cafe & Lado」を経営していた。

「北大マルシェ Cafe & Lado」は二〇一七年一

北大マルシェの入口にて



北大マルシェの店内風景



月にグランドオープンした複合型の商業施設だ。正門から入ってすぐの百年記念会館の一階部分を改修し、カフェレストランと道産食材や加工品の販売所、そして乳製品の工房をつくった。最大の特徴はこの乳製品の工房にある。北大マルシェ Cafe & Labo では、学内にある研究農場で飼われている牛から絞った生乳を買っている。それをこの工房で殺菌処理・またチーズへの加工を行い、「北大牛乳」を核とした乳製品を世の中に生み出した。

何のためにこの仕組みを作ったか。一言でいえば「北大のため」だ。それまで安価で乳業メーカーに買収されていた北大農場産の牛乳にブランド価値を付け発信することは、街中で放牧酪農を営む珍しさやその価値、そして何よりも美味しさを多くの人に知ってもらうために必要なことだ。また大学や行政を巻き込んで、北大の歴史的価値や景観、観光の機能をさらに広く発信すべく、この場所を突破口として活用していきたいとも思っている。

様々な事業に着手する一

方で、私がこの事業を始めから最もやりがい・楽しさを感じていることは別にある。「北大マルシェ Cafe & Labo」でアルバイトとして働いている学生スタッフとの日々である。北大生を中心とした総勢五〇名近い学生たちが、店舗の運営に汗を流してくれている。そのスタッフたちをまとめ指導する立場として、店舗運営の業務を質的に向上させていくことはもちろんのこと、自分が重点を置いているのは「北大生が北大のことを知ること」だ。北大

は面積としても広ければ、歴史も深い。自分も含め知らない場所や研究など、まだまだ面白いものがたくさん眠っている。学生一人一人が、自分が通っている学校に興味関心を持ち、そこで学んだことや学校の好きなところを進んで発信できるように導く仕掛けが必要だ。大学で生産している牛乳を始めとする農場生産物を自分たちの手で加工・販売できる「北大マルシェ Cafe & Labo」で学生たちがイキイキと働く姿が、何よりも北大のためになるの

かもしれない。

それなりの苦勞をして入社した大きな企業を辞めて北大に帰ってきた自分の選択が正しかったのか、それとも自分を苦しめることになるのか、行く末はわからない。ただ、今の自分が思い描く「カッコいい自分」は「泥にまみれ、汗にまみれ、北大のために頑張る自分」へといつの間にか変わっていた。

我ら北の大地に生きる

（そしてボートと）

一九九四年卒、教育史比較教育

岩尾 弘 敏

竹田正直先生に六月札幌・茨戸でお会いした際に会報寄稿のお声掛けを頂き、近況を記します。

私は、網走市役所に勤務し、総務、防災、選挙管理の仕事を担当しています。プライベートは、職場から一キロ、冬には知床半島越しに登る朝日と流水が望める高台に妻と猫一匹と共に暮らしています。

網走市役所には北大教育学部出身が四名おり、他の

三名は石川愛子（二〇〇五年卒、教育行政）、石村（中島）汐理（二〇一三年卒、教育社会）、市原聖奈（二〇一六年卒、社会教育）です。それから、近隣の斜里町役場には同期の鹿野能準（社会教育）がおり、町の財政運営のキーパーソンとなっています。

いま大多数の地方自治体は、大都市圏への人口移動に伴う人口減少・過疎化が進行中で、これによる医療、福祉、交通を始め様々な分野において課題が噴出してきます。それぞれ地域の事情が異なるので答えは一つでなく、最適の方策を見出していかなければならず中々大変ですが、やり甲斐のある仕事でもあります。趣味では、大学時代から

ボート競技に関わり、今も審判員として全国大会、時折国際大会に参加し、二〇二〇年東京五輪・パラリンピックの準備にもスタッフの一人として携わっています。

日本ボート協会のボート略史には、一八八五年札幌農学校で教科の一つとしてボートを採用、一八九六年函館港で日本郵船函館支店がレガッタを開催、同年小樽港で北海道炭礦鉄道がレガッタを開催したとの記載があります。時間ができたら是非詳しい歴史を調べてみたいと思います。

ボート部関係では、同期の杉藤洋志（身体発達）、一九九九年卒の香川友歩（同）とレガッタ会場で顔を合わせます。杉藤はコーチとして、香川は競漕艇

メーカーの職人として活躍しています。

それから、市民合唱団で歌っています（前記の石村汐理も育休中ですが団員）。この四月にはオホーツク地域の四合合唱団で集まり、音楽家・谷川賢作（詩人・俊太郎の長男）の作品を録音。一二月にCD全国発売予定です。

元気で生活しております。それではまた。

ロッキーマウンテンの麓から

二〇〇四年卒業

竹内 身 和

Assistant Professor
University of Calgary,
Canada

敬愛する友人たちに見送られながら、涙ながらに札幌を離れ、カナダのトロント大学の大学院に留学した日からもう一四年が経とうとしています。カナダでの大学院生活の当初は、毎日徹夜に近い状態で論文を読んでいたことも議論に参加できず、書くものも酷評され、辛い日々が続きました。英語には少しばかり自信が





あつて留学に挑んだのですが、そんな自信はすぐに消え、留学してから最初の二年間は、英語でのものの考え方と議論の組み立て方を地道に学びなおす作業の繰り返しでした。その頃の自分が、カナダの大学で就職して、授業を担当し、研究を進めている今の自分を見たら、さぞ驚くことだろうと想像すると可笑しくなります。辛い日々を支えてくれたのは、北海道大学在学中に得た仲間たちのことば、そして師の教えと導きでした。一般的に北米の大学院では多量の文献を幅広く読みますが、北海道大学在学中は読書会に参加しながら古典的な文献や史料をじっくりと読み込むことを教わりました。今でも、学部時代の読書ノートや学部時代に読み込んだ文献をもう一度紐解き、自分の授業や論文に生かすことがあります。教育学部の仲間たちは、人間に深く関わってゆく覚悟のある人たちが多く、その姿勢や活躍ぶりに学び、励まされてきました。私の留学生生活を案じてトロントまで会いに来てくれた後藤美海子さんは、優しさと厳しさの両方を備えた弁護士として活躍されています。カルガリー大学の交換留学プログラムでは、北海道教育大学で准教授として教鞭を執られている葛森英史さんの教え子だという学生さんに遭遇しました。今も、それぞれの場所でご活躍の同期の仲間の様子を想像すると、懐かしく、温かい気持ちになります。

持ちになります。教育学部の先生方は思慮深く、優しい方々が多く、北海道大学を卒業してから私の研究者としての成長を支えていただきました。逸見勝亮先生は、今も論文を、日本の職人の技の光る和菓子や小物とともにカナダまで送ってくださいます。石黒広昭先生、藤野友紀先生、宮崎隆志先生、北村嘉恵先生には札幌を離れた後も、アメリカのサンディエゴ、イタリアのローマ、カナダのトロント等、いろいろな場所でも再会する機会を得、その度に多くを教えてくださいました。今、私は、カルガリー大学の教育学部で、同僚にも学生にも恵まれ、大変なこともありつつ、それでも日々充実しながら仕事をさせていただいています。自分がこうしていただけるのは、北海道大学で得た出会いと知的刺激、人間への絶対的な信頼があるからだと思っています。エルムの森で出会った皆さんへの感謝を込めて、筆を下ろします。

ほどほどに

頑張る日々

平成七年度卒身体発達
辻(山崎) 京 美

今年五月のある日。ある町内会の集まりにお邪魔したところ、偶然、所先生にお会いいたしました。私自身は所先生の授業は受けたことはありませんでしたが、変わらぬ優しい笑顔に思わず、「教育学部卒業生です」なんて話してしまつたところ、後日、大変お世話になつた須田先生経由でこの寄稿を依頼されることとなりました。思えば、卒業時には進路をはっきりさせず研究生という立場で中川先生や須田先生にご心配をかけ、卒業後は行事等にも参加せず、褒められた卒業生ではなかつたと自負しております。それでも、こうして寄稿の依頼を頂いたわけですので、感謝しつつ少し近況を報告させていただきます。

私は今、社会福祉協議会というところに勤めております。もうすぐ勤続二十年了っかり職場でも古株になり、おばさんになりました。「若いな」とその溢れんばかりのパワーに圧倒されています。仕事の中はというと、日々、「お互いに支え合うやさしいまちづくり」を目標に、様々な相談、企画、研修などをしていきます。自分が小さい時は当たり前だったご近所付き合いが、今は外から働きかけなければ、繋がりが出来ないというところも少なくありません。ご近所とはあまり関わりをもたないように、面倒な付き合いは避けようとしている方が、とても増えてきました。自分のことは自分でできるから大丈夫。でも、そう話されていた方が、何かをきっかけに孤立し、自分ではどうにもならない大変な状況になってから、私たちの職場や区役所に連絡が入ることがあります。早期発見ではありませんが、もっと早い段階で気付けていれば、住み慣れた場所でもっと暮らせるのに……そう思うこともたくさんあります。家族や知人が支えてくれれば良いのですが、そもそまいかない場合、やっぱりご近所の力が大切になってきます。こうしたことを、地域に向かい

ていつては説明し、何とかしようかと思つて下さる方と一緒に話し合い、様々なことを試みているところです。私なんか言うのもおこがましいですが、是非、皆さまにもご近所付き合いは大切にして頂きたいと思っています。

家では男の子二人の母として奮闘中です。仕事と家庭の両立、そう言えば聞こえは良いですが、実際はいろいろなところで手抜きのおンパレードです。私の悩みと言えば、毎日毎日、晩ご飯何にしよう……というところでしょいか。それでも主人に毎朝お弁当の卵焼きを作ってもらったり、子ども達に「お母さん、お仕事頑張つてね」と言つてもらえたり、十分幸せな日を送ることが出ています。

最後に、教育学部で学んだことについて。授業の中心身はかなりの部分は忘れてしまいましたが……(先生方、ごめんなさい!)でも、須田先生の実験でダグラスバッグを背負った人の測定をしたとか、ゼミで読んだ英語のテキストが大変だったとか、休憩時間に食べたお菓子が美味しかったとか、

特別掲載

たくさんさんの思い出は今でも鮮明に残っていますし、仕事に直結はしなくても良い経験をさせて頂きました。だからこそ、これからも教育学部卒業生の名に恥じぬよう（ほどほどに）頑張っていきたいと思っています。

昨年の同窓会出欠はがきおよび同窓会費などの振り込み時に近況報告していただいた方々の声をご紹介します。なお、ほぼ一年前の「近況」を原文そのまま掲載いたしますので、ご了承ください（順不同、敬称略）。

○「北限のブナ林に囲まれた癒しの里」黒松内町にて児童福祉に携わっています。ランニングしていると風が気持ち良いです。北海道マラソンには毎年参加したいと思っています。

満保 裕太（18年卒）黒松内町

○今思うと北大入学後5月病にかかって、それが学部移行後も続いた。原因は依然として高校の続きの勉強だと高をくくっていたこと、

日程だけでも早めにわかれ調整して出席したいと思っています。

秋元 儀禮（73年卒）弘前市

○勤労者のメンタルヘルス援助に努力しています。

井上 蓉子（62年卒）岩見沢市

○加齢とともに快眠熟睡の時間が短くなり、4時前後に目覚め、再入眠ができなことがあります。そんなときは床をけて起床。パソコン、テレビ、読書、瞑想、二度寝、やることはいっぱいあります。

大居 健二（57年卒）札幌市厚別区

○早いもので卒業してから半世紀近くになります。半年すると第2の人生が始まる予定です。

鈴木 泰（71年卒）北広島市

○小生まだ現役で診療しております。

多米 豊（54年卒）札幌市西区

○1960年に卒業して早や半世紀以上、今も教育の場で働いています。いつも学生時代に受けた感化を実感しています。

亀貝 一義（60年卒）札幌

幌市西区

○「同窓会だより」いつも楽しみにしております。北海道内を転々としながら、中学校教諭をしています。

「同期のみんなは元気かな？」と同窓会だよりを見

るたびに思い出します。

岩井 公司（61年卒）伊達市

○8月に久しぶりに逸見先生にお会いできてうれしかったです。研究に向けた熱い情熱を感じ、圧倒させられました。先生の前では60を過ぎたジジイもまだ小僧みたいなものです。

小松 秀樹（79年卒）川崎市

○5年前に北海道教育大学札幌校を定年退職し、現在も特任として仕事を継続しております。臨床心理士として小中学校のスクールカウンセラーも続けています。

もうすぐ70歳になります。

森 範行（72年卒）札幌市東区

○水道方式の算数・数学塾を始めて20年になります。いつか「一人前」になったら、須田先生をお訪ねして「染谷（旧姓）が数学教える？ わはは……」と笑っていたかどうかとずっと

思っておりまして。半人前のまま、お会いしなかった自分は相変わらずマヌケです。須田勝彦先生、ご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。

田中 恭子（82年卒）愛知県愛知郡東郷町

○8月に全北大ゴルフコンペに出席しました。80歳以上の参加者には敢闘賞が出ますが、何と13人もいました。高齢化を肌で実感した次第です。皆さんもお元気

で!!

小島 忍（56年卒）江別市

○欠席申し訳なく存じます。70周年記念には参加できるよう努めます。

織田 光之（55年卒）さいたま市

○定年まで1年余り、悠々自適にはほど遠い毎日です。「何とかなるっしょ」と前向きに!

杉山 昌夫（83年卒）さいたま市

○「都ぞ弥生」のすばらしい曲を思い出さずさんでは当時を懐かしんでいます。皆さま方お健やかにあらせられますよう心よりお祈りいたします。

田中 哲夫（68年卒）岡

山県小田郡矢掛町

○「同窓会だより」毎号楽しく読ませていただいております。職場は変わりま

したが、相変わらず生活保護と生活困窮者自立支援の仕事です。支援の中で「自己決定」をどう実現できるのか模索です。昨年はホーム

カミングデーに参加。竹田先生、所先生や懐かしい方々にお会いできました。学生を大事にしてくれところだったとつくづく感じています。

田中 稔久（83年卒）神戸市

○昨春秋、「NHKと共に35年」ダイレクター・橋爪幸正の「自分史」を発行しました。これまで語ることのなかった人生を、子や孫に残すためです。北大時代の写真も入れました

橋爪 幸正（61年卒）さいたま市

○平成29年6月に第一子（男の子）が誕生しました。毎日ドタバタ暮らしています（笑）。

石原（旧姓・河西）まどか（11年卒）町田市

○フェローとしてお手伝いしているニトベカレッジの教え子が、オランダに公費

で行かれています。

山県小田郡矢掛町

○「同窓会だより」毎号楽しく読ませていただいております。職場は変わりま

したが、相変わらず生活保護と生活困窮者自立支援の仕事です。支援の中で「自己決定」をどう実現できるのか模索です。昨年はホーム

カミングデーに参加。竹田先生、所先生や懐かしい方々にお会いできました。学生を大事にしてくれところだったとつくづく感じています。

田中 稔久（83年卒）神戸市

○昨春秋、「NHKと共に35年」ダイレクター・橋爪幸正の「自分史」を発行しました。これまで語ることのなかった人生を、子や孫に残すためです。北大時代の写真も入れました

橋爪 幸正（61年卒）さいたま市

○平成29年6月に第一子（男の子）が誕生しました。毎日ドタバタ暮らしています（笑）。

石原（旧姓・河西）まどか（11年卒）町田市

○フェローとしてお手伝いしているニトベカレッジの教え子が、オランダに公費

で留学しました。成功を祈りメールを送っています。「教育」がいつも心の基盤にあります。

鈴木 明子（55年卒）京都市

○1989年に職を引退してから、京都のパストゥール研究所での管理職も98年に終わり、以降、地域や戦没者遺族会とか寺の役員、卒業小学校の同窓会長などと毎日多忙。やっとこの10月に解放されそうです。多忙が健康の原因だったと思っています。

鈴木 尚（56年卒）京都市

○今年も「同窓会だより」を拝見することができました。文部行政の悪化で、大学に対する締め付けが激しく、各大学とも対応に大わらわのようです。一方でわけのわからない「国家戦略特区」も話題。しかしながら、海外から見ると日本の大学への評価は下がる一方。日本社会がこれからの方向性を見つけることができず、アベノミクスなるものにかき回され、日本の財政は悪化の道をたどっています。坂の上の雲（司馬遼太郎）……私たちの時代でした。

そんな時代も遠ざかりつつあり、われらが学部・恵迪寮の名簿から彼岸へ引越す友人が多くなっています。会の成功を祈っています。ではまた来年！

徳勢 正昭（65年卒）横浜市

○いつも「たより」ありがとうございます。阪神・淡路大震災で71歳の祖母を亡くしました。逸見先生が「まだお若いのに……気の毒だね」とおっしゃってくださいました。両親が古希を迎え、その言葉を痛感する日々です。

秋山 祐子（97年卒）明石市

○「同窓会だより」をお送りいただきありがとうございます。今年もお世話になった竹田先生、逸見先生の文章に触れることができ、うれしい限りです。「たより」で同窓会の方々の各方面での活動を知り、強く励まされています。ありがとうございます。

小野塚 恒夫（78年卒）新潟市

○雑感―地球温暖化などの根本問題を放置して自国の利益を追求し続ける人類は進化レベルが高いとは言えない。悲しいネ。

伊藤 則博（62年卒）札幌市厚別区

○2016年合同シンポの報告は、3人の事業内容が簡潔に伝わり、興味深く読ませていただきました。小内先生が伝える大学人件費削減案はガツクリです。この国の未来が憂慮されますね。

国吉 昌晴（66年卒）西東京市

○同窓会が盛会であることを祈念します。昨年、卒業以来初めて参加しました。またいつか参加させていただきます。

牛島 康明（74年卒）千葉市

○ありがとうございます。クライミング三昧、という生活も厳しくなってきた今日このごろ。

杉山 敏彦（95年卒）、杉山（旧姓・中間）素子（00年卒）滝川市

○通信制・定時制の高等学校で勤務しております。少しずつ少しずつという気持ちで大切にしております。

阿部 剛康（91年卒）釧路市

○教育基本法改悪後、国家主義教育が進み、ついには



中央食堂向かいに「ジンパ」の出来るコンビニがオープン

祈りいたします。

「道徳」の教科化（「修身」の復活）、「教育勅語」の容認というところまできました。私は引き続き教育の反動化と闘っています。城戸先生の句「消えかけた火を吹きおこす夜寒かな」の思いを受け継いで。

別市 尾澤 武司（77年卒）江

〇65歳を過ぎ、非常勤として勤めていた教育大学とDV被害者の保護施設を退職。昨年から先輩にあたる亀貝先生が創設したフリースクールで非常勤講師をしています。公教育が抱える矛盾の中で懸命に学ぶ子どもたちと充実した日々を過ごしています。

〇趣味の「自分史」整理も終え、孫たち5人の成長ぶりを見るのが唯一の楽しみです。体調と酒の量は年々低下傾向です。ご盛会を祈念します。

〇85歳断捨離のひとつ、書棚の整理。捨てるのも忍び難く、ザックを背負い懐かしい南陽堂さん（正門隣接の古書店）に参上。大金を頂戴。卒業時にお世話になったことを思い出しながらの散策を兼ねたい一日でした。

福社の仕事をしています。緑いっぱいの大学のそばを通ると、懐かしくなります。生出 典子（98年卒）札幌市南区

車事故対策機構で仕事をしています。詳しいことは書けません。企業の管理者社員さんと連携する仕事などに関わっています。

市 赤羽 仁（64年卒）伊那

京都杉並区 渡部 秀清（72年卒）東

〇毎年「同窓会だより」を楽しみにしています。知人がいないかと探してみたり、諸先生の寄稿を読ませていただいたり。卒業して25年とは驚きです。92年卒の掲載がないのが残念です。私が近況報告することで「92年」、気づいてもらえるでしょうか。

〇今年1月4日、ほとんど出歩けぬ小生宅に同期の奥田利恒・小島忍の3人が集まり、生き残り会を開いた。退職後の蘊蓄（うんちく）を傾け、呑み且つ喰いながら8時間近く、学生気分談、イイ正月であった。但し、来年は約せず。

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇夏はパークゴルフ、冬はスキー。柔道、囲碁と少々の読書は年中休みなし。何かと遊び中心の毎日です。おかげさまで痴呆知らずに生きております。学問とは縁がないのが寂しい。

市 富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇8月より1年半の約束で海外を旅しています。戻ってきて就職に取り組む予定です。現在は東南アジアです。母代筆。

〇札幌市中央区 鈴木 里律子（78年卒）札幌市中央区

〇昨年、一昨年と大病を患い、今はリハビリ中のため、ご盛会を祈ります。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇愛甲 知佐子（92年卒）札幌市中央区

〇敗戦の年15歳。今また、きな臭い空気を感じて憂いています。個人的には健康維持に努力。近所の図書館で雑学に励んでいます。誠に自由、老年期もまた樂です。

〇忍 博次（54年卒）江別市

〇いつも案内をいただきありがとうございます。昨秋から体調を崩し、外出もままなりません。盛会をお

〇北星学園130周年記念

市 前田 憲（64年卒）名寄

〇北星学園130周年記念

〇大学近くの職場で高齢者

〇渡会 雅明（89年卒）函館市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

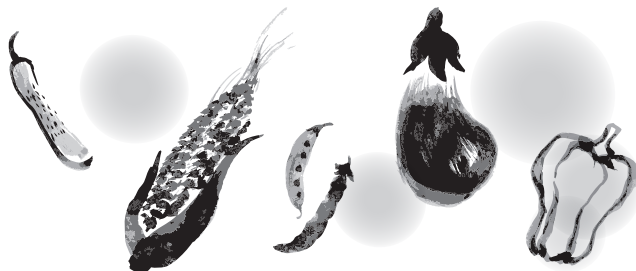
〇今年もパリ行くと重なり出席できません。15年目となり、長期滞在はこれが最後かと思っています。竹田会長、長屋兄にはいつも感謝しています。会のご発展と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

〇吉田 敏雄（56年卒）札幌市北区

〇富田 百合子（17年卒）福島市

〇北海道に「自由な小学校」をつくろうと活動中です。関心のある方、ぜひお力をお貸しください。昨年より少し前進しています。

〇富田 百合子（17年卒）福島市



会務報告 (H29. 4. 1 ～H30. 3. 31)

期 間	会 務 次 項
H29. 4. 27	須田 勝彦先生（17 期卒、名誉教授）葬儀に弔花弔電を送る。
H29. 5. 29	平成 29 年度 役員・幹事会招集。
H29. 6. 7	北大校友会エルム総会。竹田会長と齋藤幹事長が出席。
H29. 6 ～	ホームカミングデー文系 4 学部合同企画の打ち合わせ開始。
H29. 6. 21	H29 年度 役員・幹事会開催。
H29. 7. 21	役員・幹事にリテラ・ポプリを議事録と一緒に発送。
H29. 8. 20	H29 年度同窓会会報発行。
H29. 9. 30	北大ホームカミングデー 2017。
同日	文系 4 学部合同シンポジウム。
同日	平成 29 年度同窓会総会。
同日	文系 4 学部合同懇親会。
H29. 12. 11	川越 守さん（北海道交響楽団監督、4 期卒）葬儀に弔電を送る。
H30. 3. 22	北大学士学位記授与式。竹田会長と齋藤幹事長が出席。
	アレンジメントフラワーとビールを贈呈。
	学年幹事は、信田 水葉（ノブタ ミズハ）、八幡 優輔（ヤハタ ユウスケ）さん。

会計報告 (H29. 4. 1 ～H30. 3. 31)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前期繰越	327,212	懇親会費（H29）＊ 2	49,211
懇親会費（H29）＊ 1	42,000	会報作成発送費（H29）	347,230
懇親会余剰金	0	通信費・発送費	29,169
会費等収入（料金相殺）	398,120	雑費・消耗品費	4,659
雑収（銀行利息）	2	慶弔費	17,009
		交際費	19,000
		卒業式協力費	20,912
		交通費	7,500
		（小計）	494,690
		次期繰越	272,644
合 計	767,334	合 計	767,334

＊繰越内訳

郵便振替残	9,038 円
銀行預金残	263,606 円
合 計	272,644 円

＊ 1、参加 14 名分。

＊ 2、後日支払った追加負担分を含む。

同窓会名簿発行再延長のお知らせ

昨年の会報でもご案内した通り、2年にわたって同窓会名簿の予約受付をしてきましたが、最低発行部数の200部に対し予約数は74件にとどまりました。役員・幹事会でも「74件しか」と見るべきか、「74件も」と見るべきか議論されましたが、仮に100部で発行をした場合は単価がおおよそ2倍に跳ね上がってしまう事が判明したために、今回は発行を断念し再度の延期とすることにいたしました。改めて、学部創立70周年の記念行事と関連させて検討する事にいたしました。また、現在、校友会エルムにおいて医学部同窓会と工学部同窓会との間で電子名簿の運用を試行中です。その状況によっては、来年以降各学部同窓会と校友会エルムとの電子名簿の共同運用が本格的に検討される見通しも出てきましたので、あわせて検討していく考えです。

△編集後記▽

今年もようやく会報の編集活動を終了することが出来ました。寄稿して下さいった皆さんには感謝にたえません。また、多くの方々にご支援いただき、ありがとうございました。

ただ、今年は私の方が多忙を極めていて作業が遅れがちになってしまった事は申し訳ありませんでした。

今年特に忙しく手が回らなかった理由は、仕事が出張続きだった上に、私のボランティア活動があります。

実は、私事ではありますが、三〇年くらい前に一人の捨て猫を保護した事をきっかけに、以来ずっと捨て猫・野良猫の保護ボランティア活動をしています。保護した数は既に二〇〇人を超えています。今年も春に妊娠中の捨て猫を保護し、その後五人の赤ちゃんが産まれたために、その病院通いや里親探しに奔走されていました。幸いにも赤ちゃんたちは無事に育ち、全員里親が決まりほっとしています。母猫はこのまま我が家の現在の二五人目の子どもになります。

世間では、空前の猫ブー

ムとか言われていますが、今後確実に捨て猫が増えるだろうと危惧しています。なぜ、私たちと同じ心を持った命がこんなに粗末に扱われるのかと残念でなりません。

さて、今年のホームカミングデーの文系四学部合同シンポジウムのパネリストは、あの森田美由紀さんです。どんな話になるのか、今から楽しみです。皆さんも是非会場に足を運んでください。

来年は、教育学部創立七〇周年を迎えます。学部と同窓会とで協力して色々企画していこうと考えています。

では、同窓生の皆様のおますすのご健勝を祈りつつ、編集活動を終了します。

(八月九日 齋藤 彰)



なつかしい事務窓口



トピックス

ホームカミングデー 2017 〈2017.9.30〉



全体の歓迎式典にて



合同シンポジウムの様子



参加者の質問に答えるパネリスト



パネリストの皆さん



総会終了後の記念写真



昨年に引き続き秋元札幌市長も参加



竹田会長のスピーチに笑顔がこぼれた



懇親会の様子

トピックス

学士学位記授与式と祝賀会の様子 〈2018.3.22〉



一人一人に学位記が授与された



笑顔の卒業生、修了生



竹田同窓会長より学年幹事の委嘱



留学生も着物姿で出席



祝賀会にて



祝賀会にて



祝賀会にて



祝賀会にて



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

今年も開催します！
**北海道大学
ホームカミングデー
2018**

2018.9.29 土

会場 北海道大学 札幌キャンパス

主催 北海道大学

共催 北海道大学
校友会エルム



HOKKAIDO UNIVERSITY
HOME COMING
DAY 2018
Be ambitious again!

お問い合わせ先

北海道大学 総務企画部 広報課 TEL:011-706-2012
受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日を除く) FAX:011-706-2092

北海道大学校友会エラム

北海道大学の卒業生の皆様のご登録をお待ちしております

※平成28年6月1日以前に基礎同窓会（教育学部同窓会等）に加入されている方は会費不要です。



学生の皆様に支援しています

キャリアセンターと連携して北海道大学企業研究
セミナーを開催しています

会員登録は以下URLからフォームにアクセス



<http://www.alumni-hokudai.jp/>
在学生・卒業生・教職員向け



郵送でのお申し込みをご希望の方は事務局までご連絡ください



校友会のPVをぜひご覧ください
<https://youtu.be/clbNUUsJ23s>



北大との絆をつなぐ一枚



UCカード株式会社
北海道大学カード



三井住友カード株式会社
北海道大学カード

申込み

UCカード専用ページから申込み

UCカードサイト
新しくカードを作る
UCカード一覧
北海道大学カード



[https://www2.uccard.co.jp/
card/lineup/hokudai.html](https://www2.uccard.co.jp/card/lineup/hokudai.html)

三井住友専用ページから申込み

三井住友カードサイト
カードをつくる
カード一覧
北海道大学カード



[https://www.smbc-card.com/
nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp](https://www.smbc-card.com/nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp)

北大事務局
から申込み

専用申し込み用紙を送付いたしますので、下記宛にお名前・ご住所をお知らせください。
カードは、お申し込みから約1ヶ月後に、カード会社からご自宅にお届けします。

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み

北海道大学カードへの入会による取次手数料及びカード利用額に応じた提携手数料がカード発行元の北海道大学校友会エラムに還元され、これを「北大生支援資金」として北海道大学に寄附し、「奨学金」、「留学支援金」、「課外活動への費用援助」等に役立ててもらおうとしています。

北海道大学カード

本学卒業生、教職員又は[※]在学生父母の方限定

※UCカードのみ



お問い合わせ先

北海道大学校友会エラム
電話：011-706-2101/2102
kouyukai@general.hokudai.ac.jp



北海道大学校友会エラム
HOKKAIDO UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION ELM



北海道大学ホームカミングデー 公開シンポジウム

いままでの北海道 これから の北海道

— 森田美由紀さんをお迎えして

今年は北海道百五十年という節目の年であり、それぞれの社会経験に根差した多様な足跡を振り返る営みから、今日の我々のあり方を
見直すこと、そして、将来の展望を見据える契機ともなりうる。
本企画では、NHKのアナウンサーとして北海道で、そして全国で
活躍されている森田美由紀さんをお迎えし、講演をいただく。

参加費無料
申込不要

日時 平成 30 年 9 月 29 日 (土) 15 時 ~ 16 時 30 分
場所 人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) 103 室

講演者プロフィール

北海道札幌南高等学校を経て北海道大学文学部卒業。1983 年 NHK 札幌放送局の契約リポーターとして夕方のニュースに出演。1987 年 NHK アナウンサーに。88 年東京アナウンス室に異動し「7 時のニュース」担当。その後「ニュース 21」「ニュース 7」など、長く報道番組を担当。様々な番組のナレーションや「芸術劇場」「日曜美術館」など文化芸術番組の司会を経験し、2007 年から 10 年まで、ふるさと札幌放送局で夕方のニュースや特集番組を担当。現在は総合テレビ「あの日 あの時 あの番組」の司会や「チコちゃんに叱られる」のナレーション、ラジオ深夜便のアンカーなど。